

2018年度決算の概要

(2018年4月1日～2019年3月31日)

ご説明資料



“特殊”だけど“身近”な「特殊鋼」



山陽特殊製鋼株式会社



目次

1. 2018年度決算の概況

損益の概要

業績推移(年度、四半期)

経常利益の変化要因

(2017FY→2018FY、2018FY上期→2018FY下期、2018FY3Q→2018FY4Q)

原燃料価格の推移

セグメント別損益

貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

D/Eの推移

(参考)設備投資・減価償却費の推移

期末配当金について

2. 2019年度業績予想等

2019FY業績予想

2019FY配当予想

経常利益の変化要因(2018FY→2019FY予想)

3. 参考資料

財務指標の推移

その他のトピックス

損益の概要

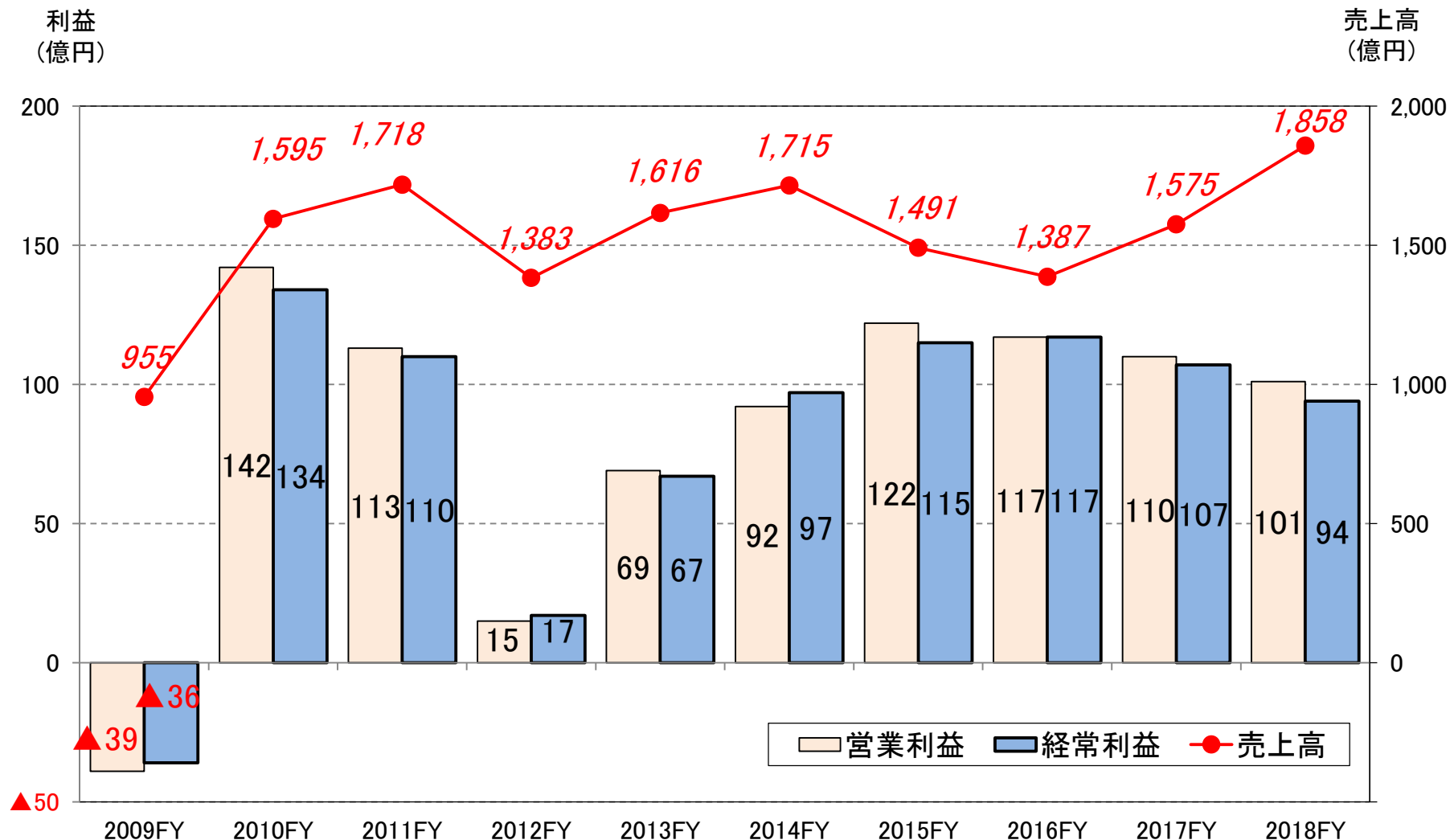
(単位:億円)

	2018FY (A)		2017FY (B)		対前年度 (A)-(B)		2018FY業績予想 (2018/10/31公表)	
	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)	金額	売上高 比率(%)
売上高	1,858	100.0	1,575	100.0	+283	+18.0	1,850	100.0
営業利益	101	5.4	110	7.0	-8	-7.7	100	5.4
経常利益	94	ROS 5.1	107	ROS 6.8	-12	-11.5	95	ROS 5.1
純利益(注)	77	4.2	70	4.5	+7	+9.8	80	4.3
売上数量(千t) (単体+MSSSPL)	1,171	97.6 /月	1,069	89.1 /月	+102	+8.5 /月	1,181	98.5 /月
(内 単体)	1,061	88.4 /月	1,069	89.1 /月	-8	-0.7 /月	1,071	89.3 /月

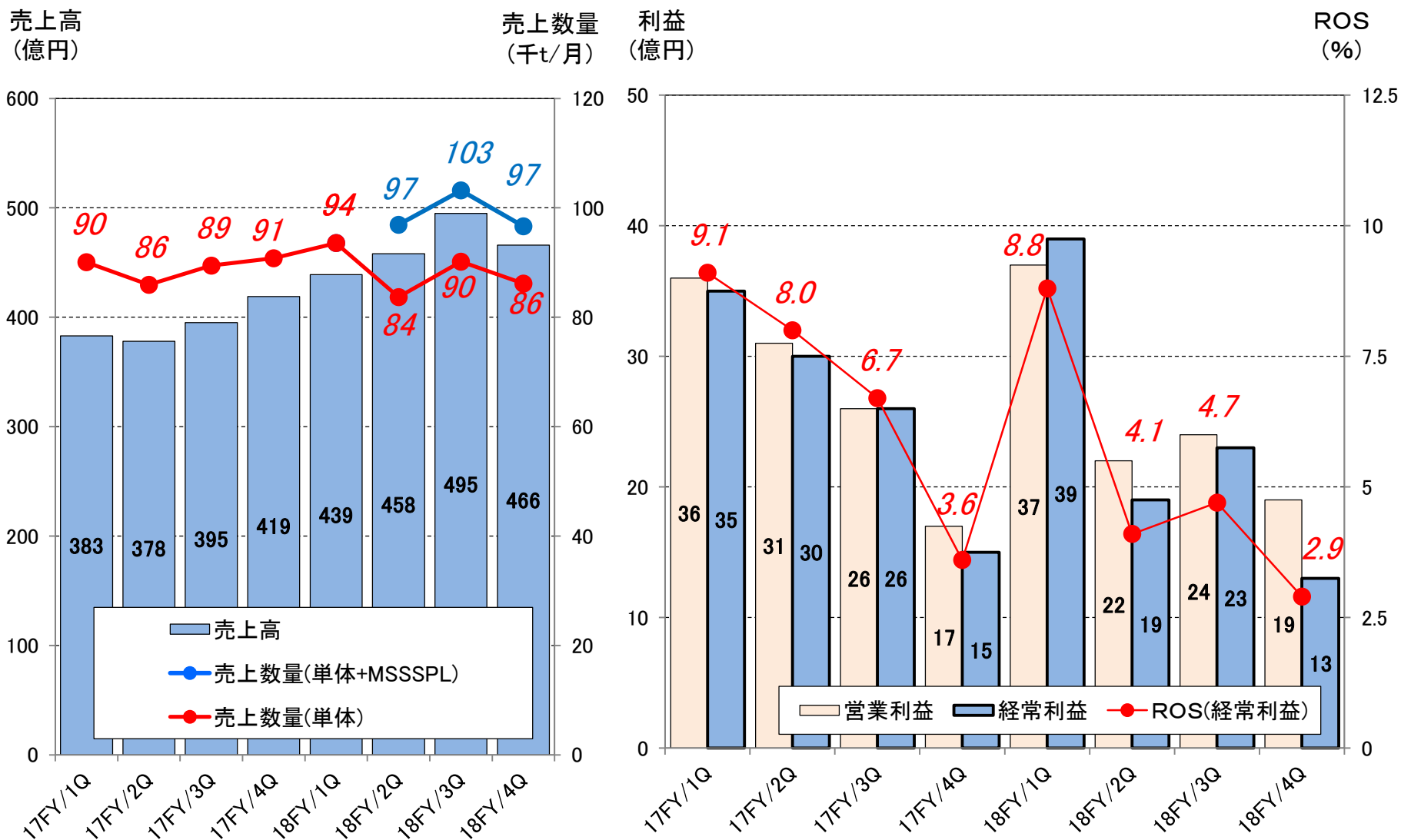
(注) 親会社株主に帰属する当期純利益。2018FYには、2018年6月のインドのMahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.

(MSSSPL) 連結子会社化にともなう段階取得に係る差益15億円を含む。

業績推移(年度)

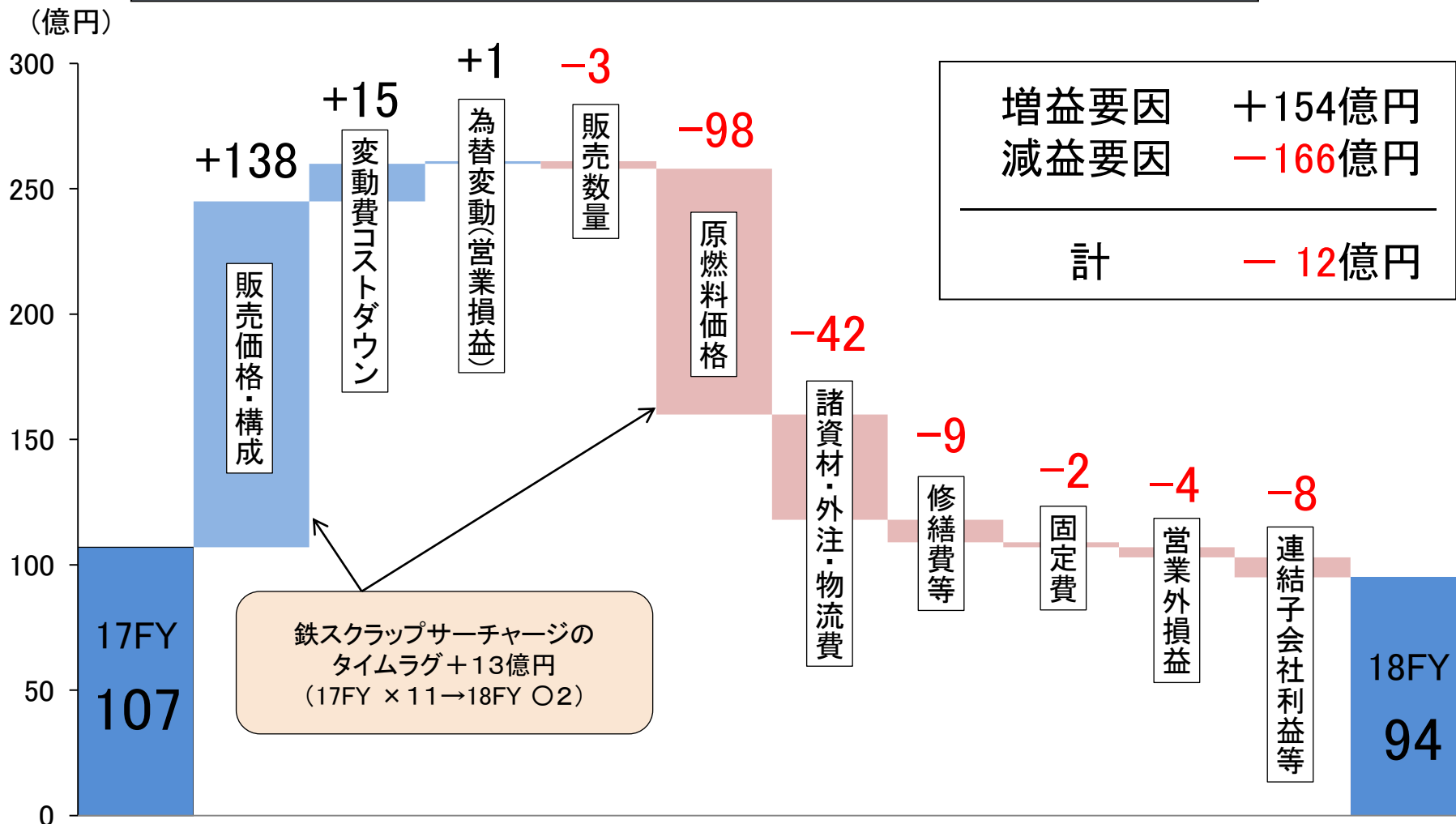


業績推移(四半期)



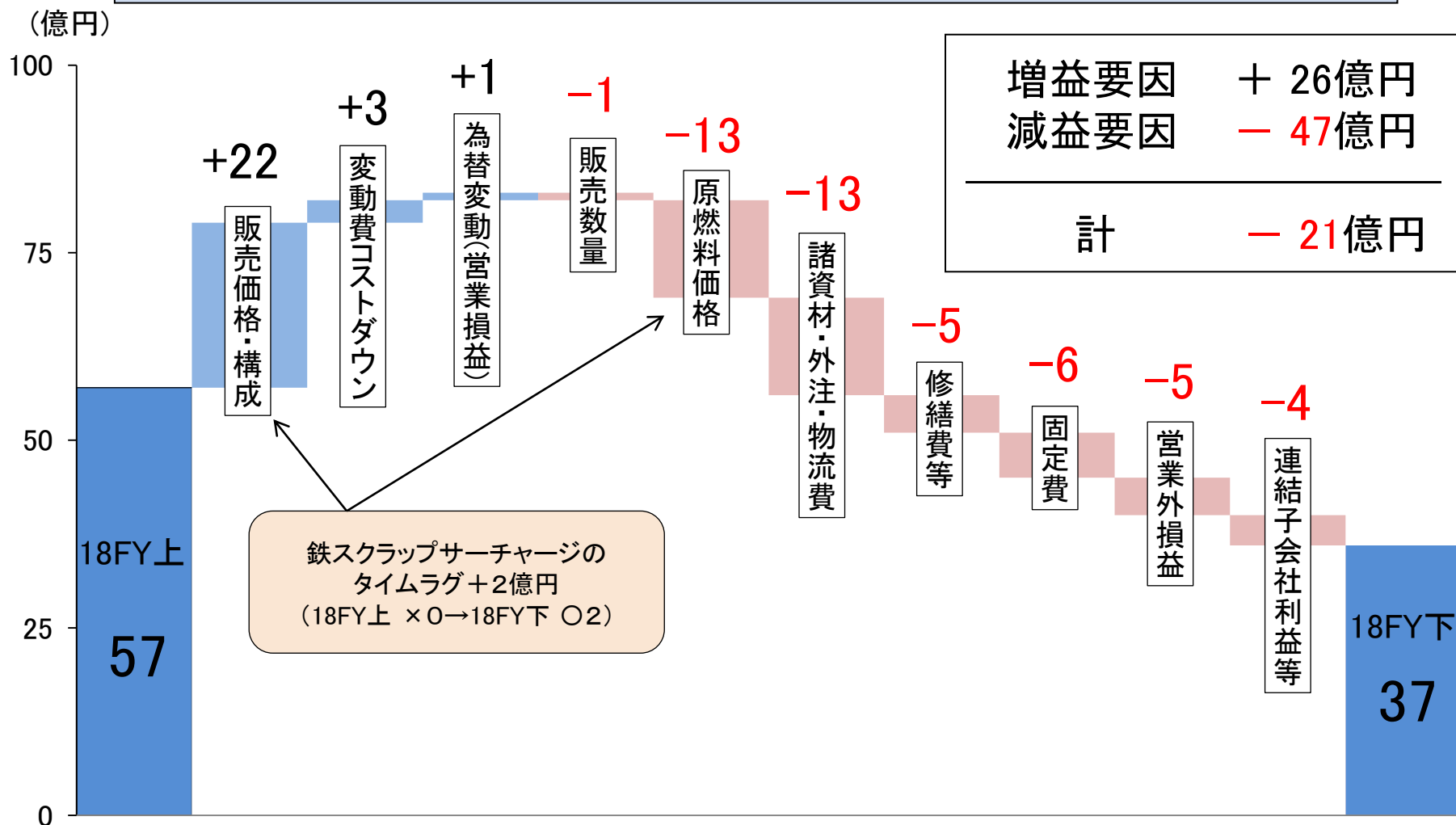
経常利益の変化要因

2017FY(107億円) → 2018FY(94億円) (**-12億円**)



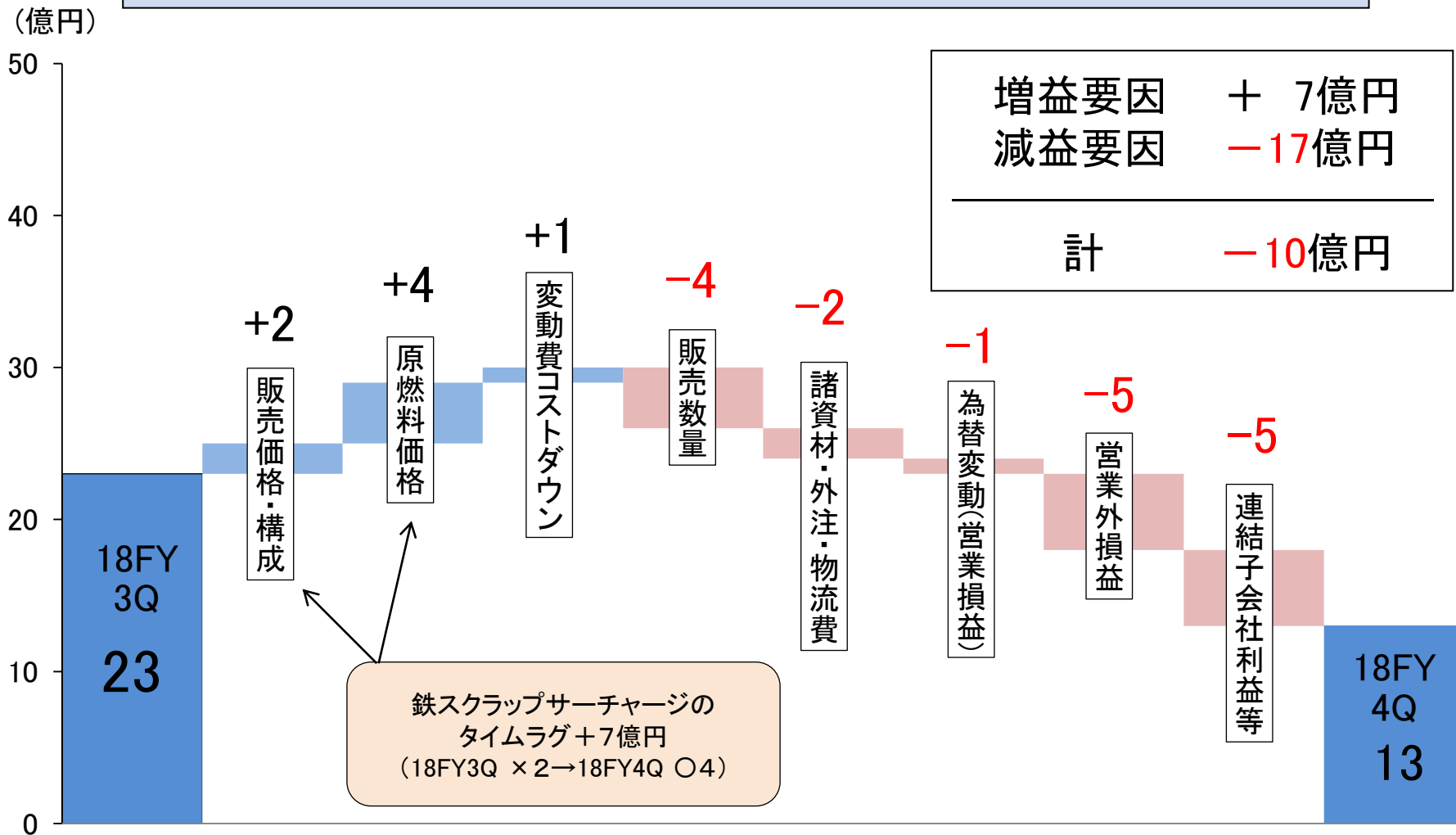
経常利益の変化要因

2018FY上期(57億円) → 2018FY下期(37億円) (**-21億円**)



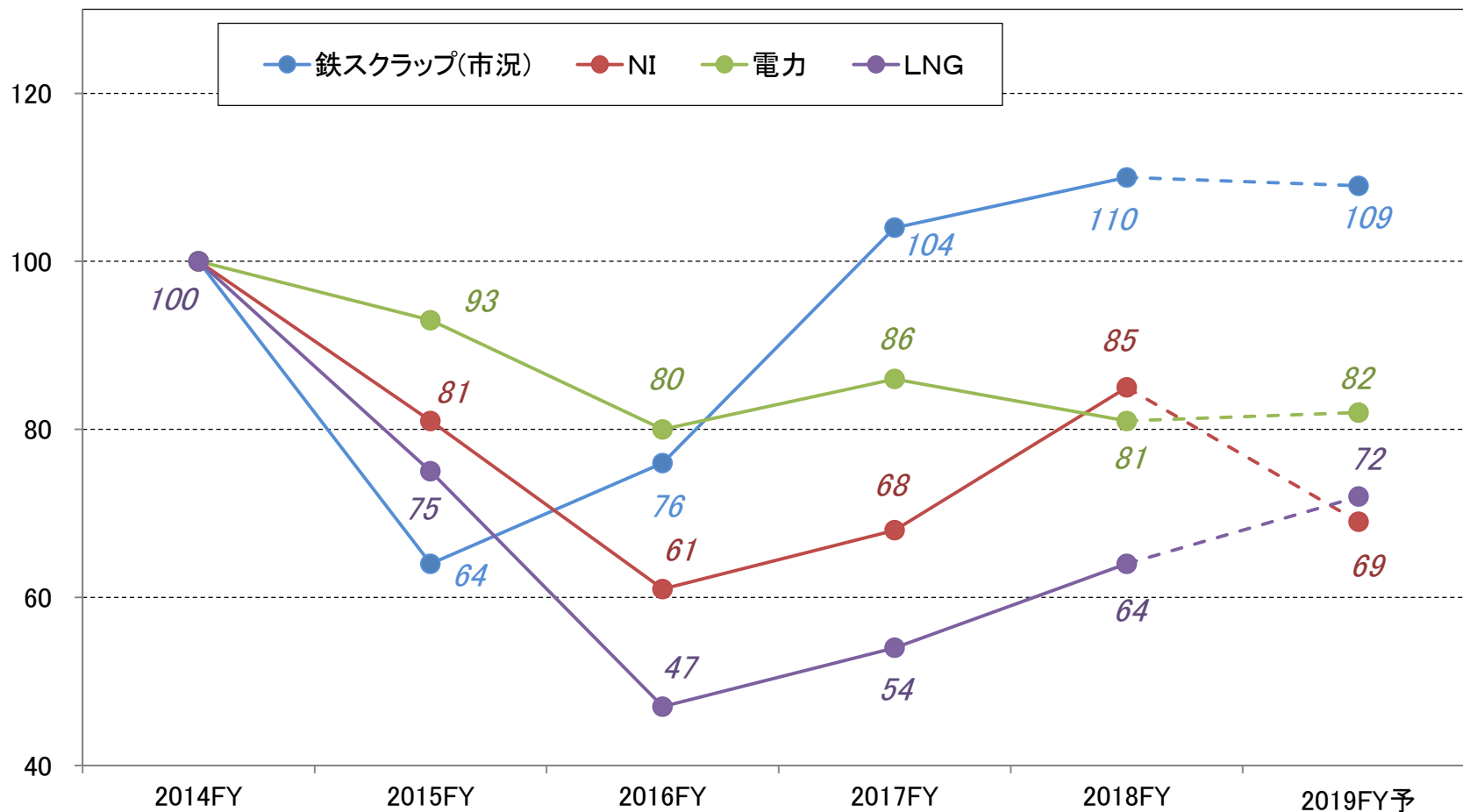
経常利益の変化要因

2018FY3Q(23億円) → 2018FY4Q(13億円)(**-10億円**)



原燃料価格の推移

(2014FY を100とした指数表示)



(注)購入価格ベース

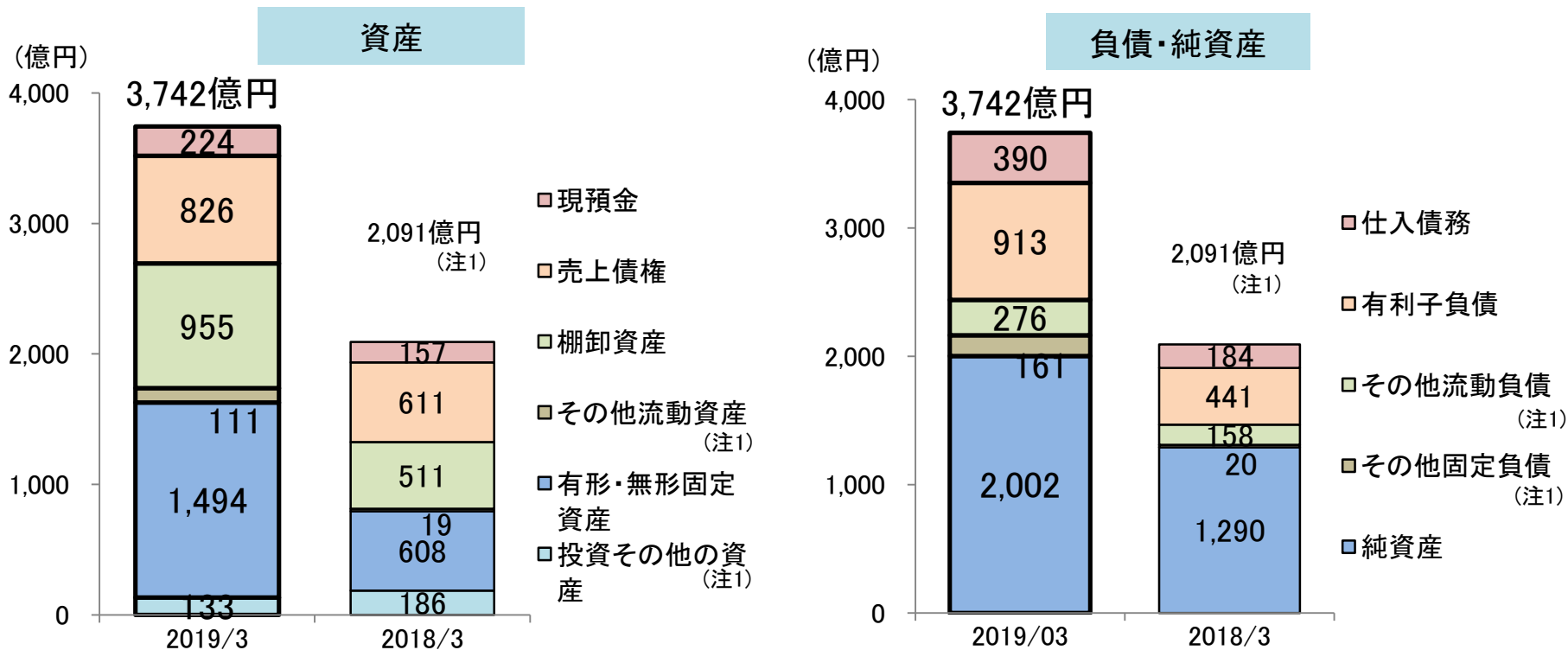
セグメント別損益

(単位:億円)

	2018FY(A)			2017FY(B)			対前年度(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)
鋼材(注)	1,702	85	5.0	1,420	92	6.5	+282	-8	-1.5
粉末(注)	49	7	13.9	49	9	18.9	+0	-2	-5.0
素形材(注)	200	9	4.4	184	7	3.8	+16	+2	+0.6
小計	1,951	100	5.1	1,653	109	6.6	+298	-8	-1.5
その他	16	0	2.6	15	0	1.8	+1	+0	+0.8
調整額(注)	▲109	1	—	▲94	1	—	-16	-0	—
連結計	1,858	101	5.4	1,575	110	7.0	+283	-8	-1.6

(注) 2018FYより、管理方法の見直しに伴い、「調整額」に含めていた棚卸資産の調整額を各報告セグメントの営業利益に配分。
2017FYのセグメント情報についても、変更後の算定方法に基づき記載。

貸借対照表



資産の主な増減 +1,651億円

売上債権	+ 215億円	: 新規連結影響 +182億円、数量差異 -29億円、単価差異等 +62億円
棚卸資産	+ 444億円	: 新規連結影響 +406億円、数量差異 -1億円、単価差異等 +27億円
有形・無形固定資産	+ 886億円	: 新規連結影響 +877億円 (Ovakoのれん407億円(注3)含む) 等

負債・純資産の主な増減 +1,651億円

仕入債務	+ 206億円	: 新規連結影響 +194億円 等
有利子負債	+ 473億円	: 新規連結影響 +477億円 等
純資産	+ 712億円	: 第三者割当増資 +672億円、純利益計上等による利益剰余金増+55億円 等

(注1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正等を2018FYから適用しており、2017FYについても、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載。

(注2) 新規連結影響(+1,613億円)は、2019年3月に子会社化したスウェーデンのOvakoと2018年6月に子会社化したインドのMahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd. (MSSSPL)に係るものであり、その内訳は、Ovako+1,038億円、MSSSPL+169億円、Ovakoのれん+407億円(注3)。

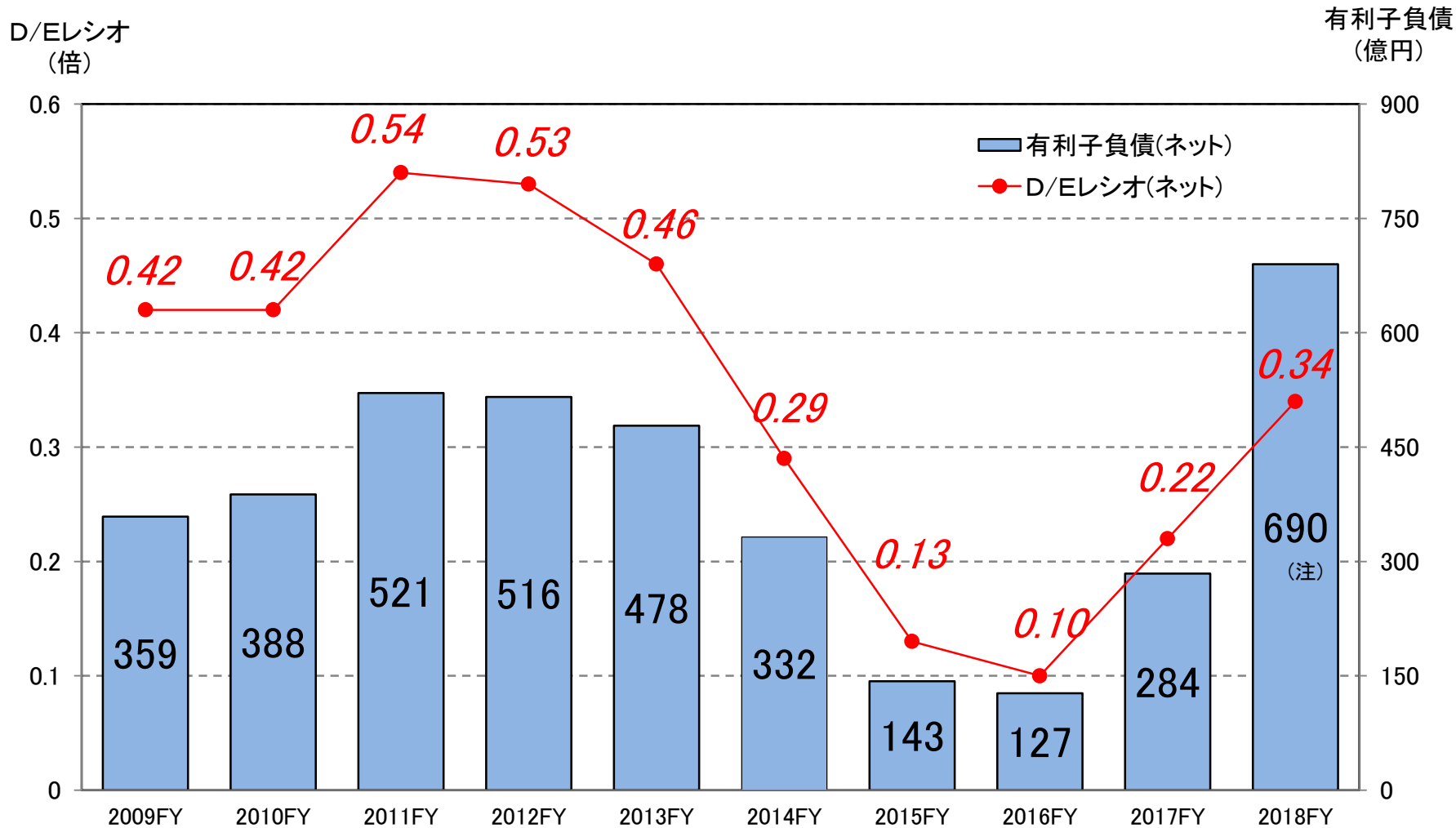
(注3) Ovakoのれん金額は、株式取得価格の調整により変動することが見込まれます。

キャッシュ・フロー計算書

(億円)

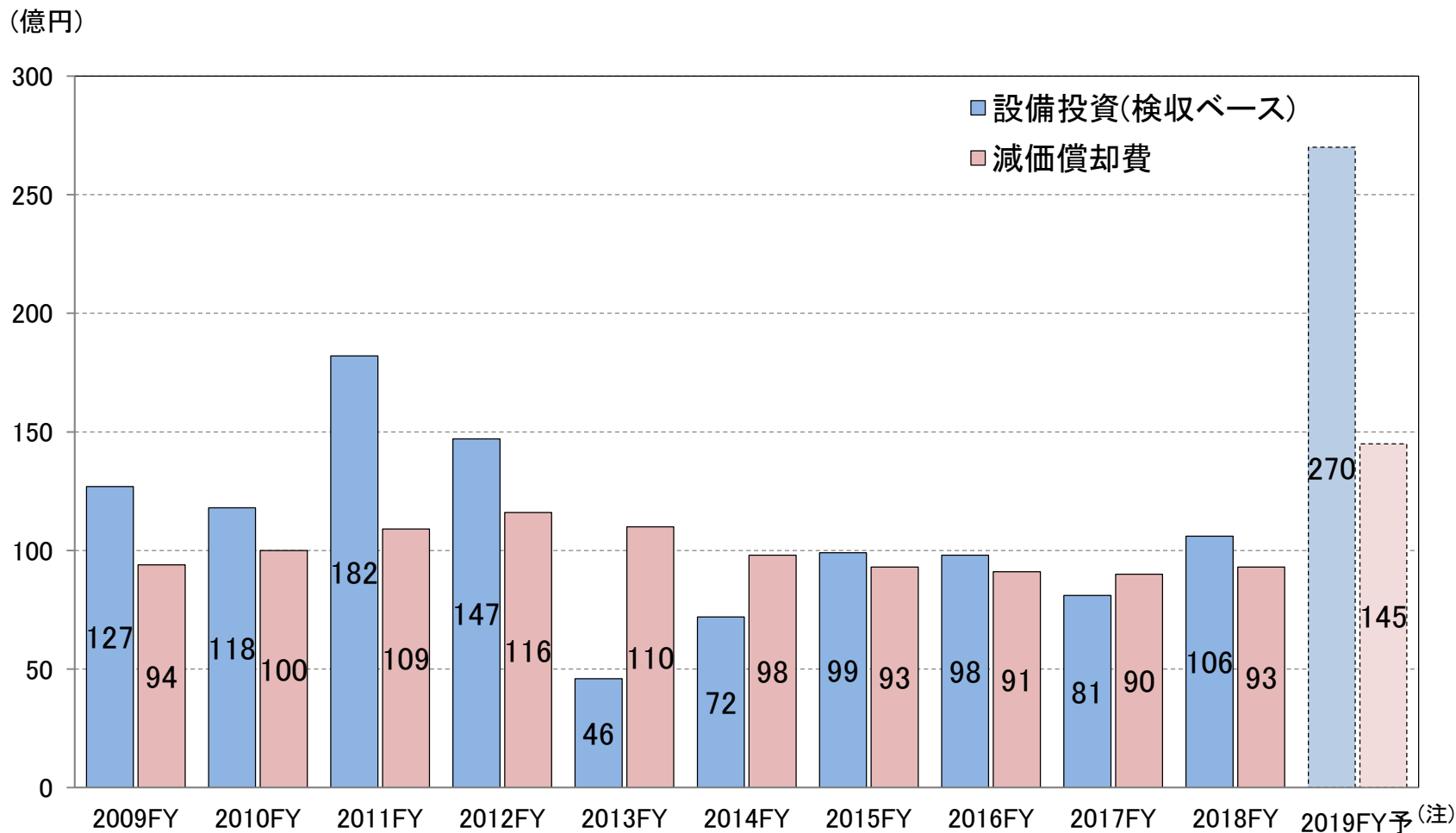
	2014FY	2015FY	2016FY	2017FY	2018FY
営業活動によるC/F (A)	207	288	151	△56	108
税金等調整前当期純利益	102	111	115	103	104
減価償却費	98	93	91	90	93
法人税等の支払または還付	△23	△48	△40	△37	△33
運転資金等	30	131	△15	△212	△57
投資活動によるC/F (B)	△59	△85	△111	△84	△690
設備支出	△68	△71	△107	△80	△91
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	—	—	—	—	△604
その他	9	△14	△4	△4	5
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	148	203	39	△140	△583
財務活動によるC/F (C)	△174	△188	△108	147	659
借入金・社債・CPの増減	△166	△167	△90	166	5
株式の発行による収入	—	—	—	—	671
自己株式の取得または売却	△0	△0	△0	△0	△0
配当金の支払	△8	△21	△18	△23	△23
その他	—	—	—	4	5
換算差額 (D)	3	△2	△3	△0	△2
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△23	13	△71	8	75

D/Eの推移



(注) 2018FY予の有利子負債(ネット) 690億円の内、Ovakoは、336億円、MSSSPLは、28億円。

(参考)設備投資・減価償却費の推移



(注)2019FY予の設備投資(検収ベース)270億円の内、Ovakoは、54億円、MSSSPLは、12億円。
2019FY予の減価償却費145億円の内、Ovakoは、39億円、MSSSPLは、5億円。

期末配当金について

(参考)

	2018FY	2017FY	2018FY予想 (18/10/31公表値)
当期純利益(注1)	77億円	70億円	80億円
1株当たり当期純利益(注2)	237.8円	218.3円	246.3円
1株当たり年間配当(A)(注2)	69.0円/株	58.5円/株	71.5円/株
【配当性向(年間)】(注3)	29.0%	26.8%	29.0%
中間配当実施額(B)(注2)	45.0円/株	33.5円/株	45.0円/株
期末配当実施額(A)-(B)(注2,4)	24.0円/株	25.0円/株	26.5円/株

(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益

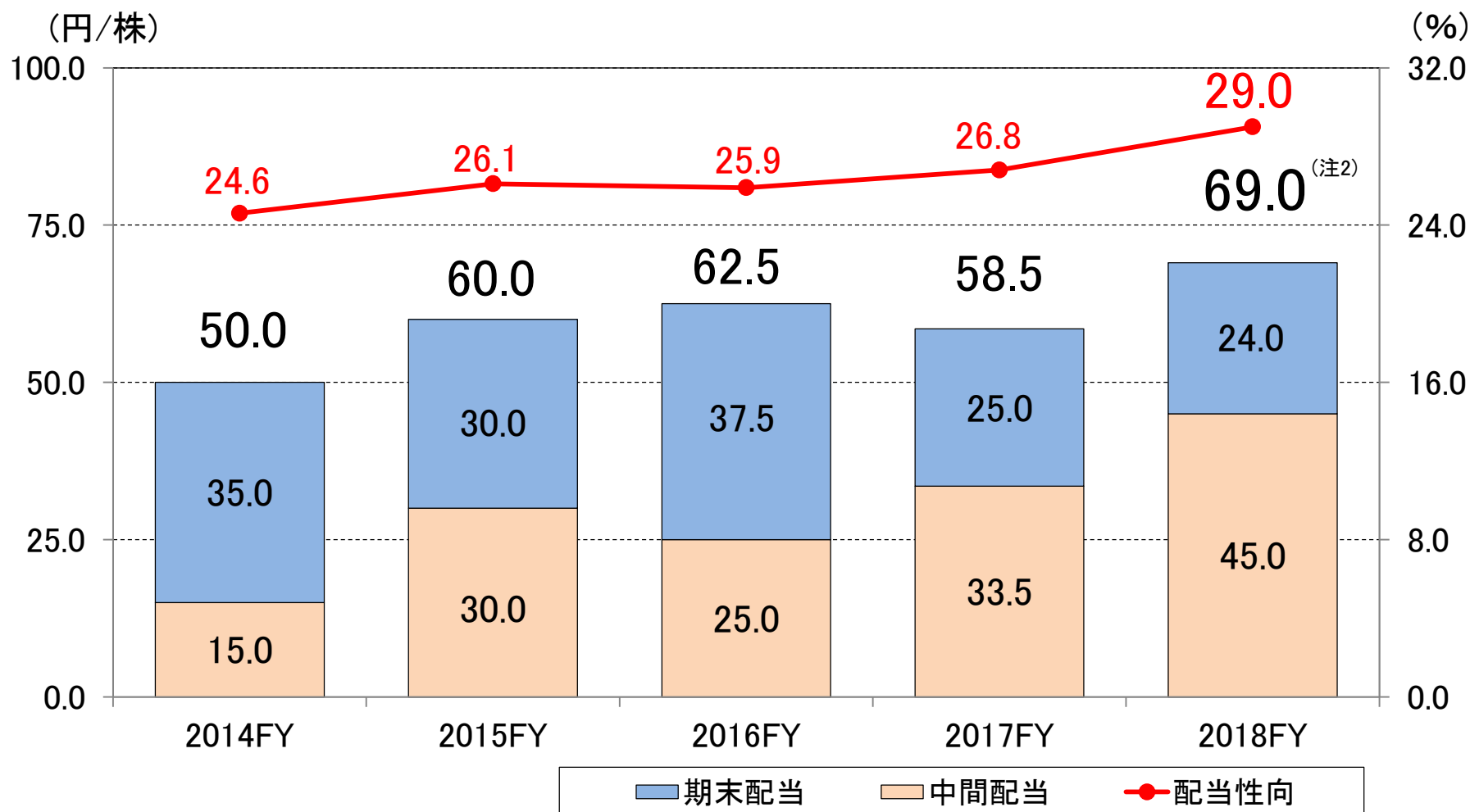
(注2) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。2017FYは、当該株式併合を踏まえて換算。

(注3) 配当性向は、1株当たり年間配当金を1株当たり当期純利益で除して算定した値を記載。

(注4) 2018FY期末配当の効力発生日 2019年6月5日

<配当方針>
連結配当性向25～30%程度を基準とする

配当推移



(注1) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注2) 2018FY年間配当69円/株は、過去最高水準(株式併合前ベースでは、13.8円/株)。

2019FY業績予想

(単位:億円)

	19FY上期 (A)	19FY下期 (B)	2019FY予想 (C)=(A)+(B)		2018FY (D)		対2018FY (C)-(D)	
	金額	金額	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)
売上高	1,600	1,550	3,150	100.0	1,858	100.0	+1,292	+69.5
営業利益	65	45	110	3.5	101	5.4	+9	+8.7
(内 単体)	35	37	72	-	98	-	-25	-
(内 Ovako)	42	15	56	-	-	-	+56	-
(内 MSSSPL)	1	5	6	-	▲2	-	+8	-
(注1) (内 Ovakoのれん償却)	▲14	▲14	▲27	-	-	-	-27	-
経常利益	60	40	100	ROS 3.2	94	ROS 5.1	+6	+6.0
当期純利益(注2)	46	24	70	2.2	77	4.2	-7	-9.3

(注1) Ovako株式取得に伴い発生したのれんの償却費
(15年の定額償却)

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

予想の主要前提

- ・鉄スクラップ 32.0千円/t (姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 70\$/BL
- ・為替 110円/\$、125円/€

<参考>

	19FY上期	19FY下期	2019FY予想		2018FY		対2018FY	
	(千t/上期)	(千t/下期)	(千t/年)	(千t/月)	(千t/年)	(千t/月)	(千t/年)	(千t/月)
売上数量	990	960	1,950	162.5	1,171	97.6	+779	+64.9
(内 単体)	516	528	1,044	87.0	1,061	88.4	-17	-1.4
(内 Ovako)	405	345	750	62.5	-	-	+750	+62.5
(内 MSSSPL)	69	87	156	13.0	110	9.2	+46	+3.8

2019FY配当予想

		2019FY 中間予想	2019FY 期末予想	2019FY 年間予想	(参考) 2018FY 実績
当期純利益(注1)		46億円	24億円	70億円	77億円
Ovakoのれん償却前当期純利益		60億円	38億円	97億円	
1株当たり純利益	A	81.8円		124.5円	237.8円
Ovakoのれん償却前 1株当たり純利益	B	105.8円		172.5円	
1株当たり配当金	C	31.7円	20.0円	51.7円	69.0円 (中間45.0円、 期末24.0円)
配当性向 (注2)	C/B	30.0%		30.0%	
	C/A	38.7%		41.5%	29.0%

(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益

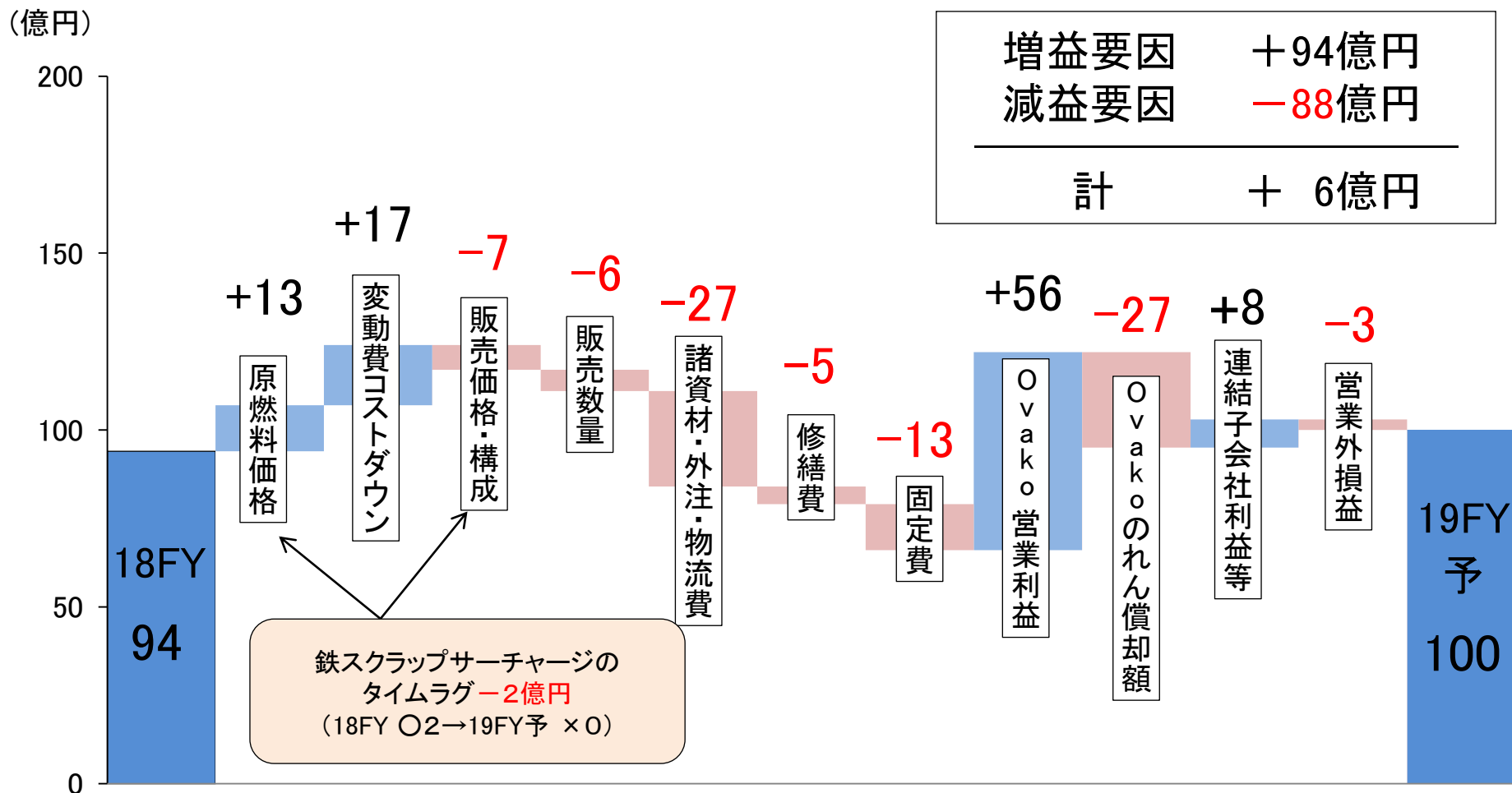
(注2) 配当性向は、1株当たり年間配当金を1株当たり当期純利益で除して算定した値を記載。

<配当方針>

連結配当性向25～30%程度を基準とする

経常利益の変化要因

2018FY(94億円) → 2019FY予想(100億円)(+6億円)



財務指標の推移

		2014FY	2015FY	2016FY	2017FY	2018FY
ROE(自己資本当期純利益率)	%	6.1	6.6	6.6	5.6	4.8
ROS(売上高経常利益率)	%	5.7	7.7	8.5	6.8	5.1
ROA(総資産経常利益率)(注1)	%	4.8	6.0	6.5	5.4	3.2
自己資本比率(注1)	%	55.8	62.4	66.7	61.0	52.3
有利子負債(ネット)	億円	332	143	127	284	690
D/Eレシオ(ネット)(注2)	倍	0.29	0.13	0.10	0.22	0.34
1株当たり当期純利益(注3)	円/株	203.0	230.0	241.5	218.3	237.8
1株当たり純資産(注3)	円/株	3,498	3,483	3,797	3,961	3,481
期末従業員数(注4)	人	2,706	2,625	2,598	2,666	6,835

(注1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正等を2018FYから適用しており、2017FYについても、当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載。

(注2) 有利子負債から返済に充当可能な現預金を差し引いた純有利子負債の、純資産に対する比率。

(注3) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注4) 2018FYについては、2018年6月にMSSSPLを、2019年3月にOvakoを子会社化したことによる増加。

その他のトピックス

(1) 日本製鉄株式会社(以下日本製鉄)による当社の子会社化および当社によるOvako AB社(以下Ovako)の子会社化完了について

・2019年3月28日に以下の取引が完了。

- ① 日本製鉄による当社の子会社化
当社がOvako全株式を取得するための資金調達を目的とし、日本製鉄を引受人とする第三者割当増資を実施。
- ② 当社によるOvakoの子会社化
日本製鉄から当社へOvako全株式を譲渡

【Ovako社の工場外観】



【Ovako社の拠点】



その他のトピックス

(2)冷間工具鋼「QCM64-HARMOTEX®」を開発

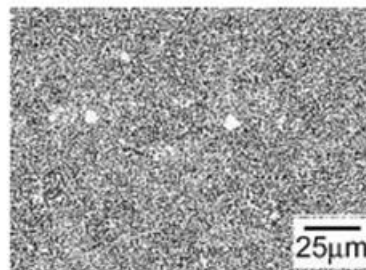
- ・当社は、冷間工具鋼の高性能化ニーズに対応する64HRCクラスの高硬度と高い靱性を兼ね備えた「QCM64-HARMOTEX®」を開発。
- ・当社の優れた組織制御技術を駆使し、粗大炭化物の晶出を抑制する最適な合金成分を見出し、高い硬度と靱性を実現。
- ・「QCM64-HARMOTEX®」の特長
 - 1) JIS SKH51 等のハイスに匹敵する高硬度、高靱性を実現
→冷間金型の寿命や製品品質の向上に寄与
 - 2) 汎用の冷間工具鋼と同等の熱処理条件で優れた性能を発揮
→冷間金型の製造費用のコストダウンに貢献



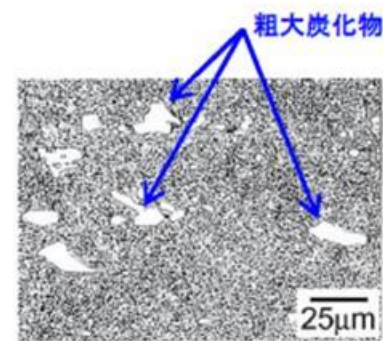
※HRC
ロックウェル硬さと呼ばれる鋼材の硬さ水準を表す単位。
焼なまし材の硬さは20HRC程度。

※ハイス
高速度工具鋼 (High Speed Steel) の略称。もともとは鋼を削る切削
工具用に作られた鋼種であり、高硬度と優れた耐摩耗性を示す。

<マイクロ組織の比較>



【QCM64-HARMOTEX®】



【JIS SKD11】

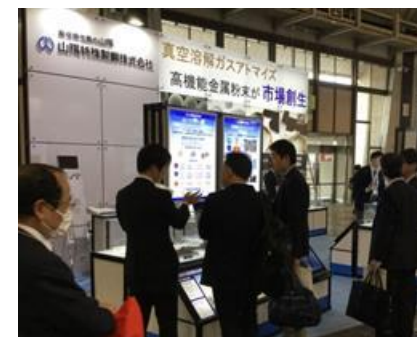
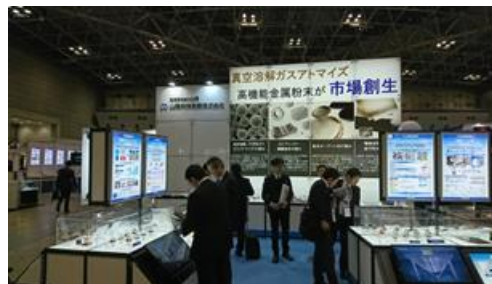
その他のトピックス

(3)TCT JAPAN（東京）、次世代3Dプリンタ展（名古屋）へ出展

・2019年1月にTCT JAPAN、2019年4月に次世代3Dプリンタ展に出展。

・高機能ガスアトマイズ粉末、粉末成形品、3Dプリンター造形物等を展示。

・当社ブースには、多数の方が来場。



※TCT:Time Compression Technology

あらゆる産業における新製品・技術開発に向けた3Dプリンティング/積層造形技術の応用による、製造プロセスの加速化・最適化を図る技術。

(4)健康経営優良法人2019(大規模法人部門)」に認定

・当社は、2019年2月に、経済産業省および日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2019(大規模法人部門)」に認定。

・従業員の安全と健康を事業活動の最優先事項とし、従業員の心身の健康増進と生き生きと働くことができる職場づくりを進めてきた取組みが評価。

・当社は今後も引き続き、安全で健康的な職場づくりを推進し、豊かな社会の実現に貢献し、一層の信頼を得られる企業を目指す。





特殊鋼で、つぎの未来へ。

www.sanyo-steel.co.jp

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)

